

「第3回石川地方会開催報告」

平成26年5月10日、石川県地場産業振興センター新館コンベンションホールにて、第3回石川地方会を開催致しました。今回、県内・県外より160名の方にご参加いただきました。

今回のテーマ『医師事務作業補助者の教育』は、当支部世話人会の実務者が教育に困っていると発言したことがきっかけでした。テーマは決定したものの、どのような内容にしたらよいのだろうか、教育とはなんだろうか、“教育”について考える日々が続きました。世話人会で教育について尋ねたところ「32時間研修の後にどのような教育が必要か」「実務者が使命を持つことが重要ではないか」「他院の取り組みを知りたい」「一人一人が教育について考える会となれば良いのではないか」等、貴重なご意見をいただき、準備を進めることができました。今回の開催報告から、当日の様子をお伝えできれば幸いです。

最初に、「皆さんの経歴は様々で、リーダー的に活動されている人も勉強し、後輩たちも教え、大変だと思う。今回は石川県医師会から後援させていただきました。是非、頑張ってくださいたい。」と、当支部顧問・上田 博先生より日頃の実務者への労いと激励の言葉を頂き、開会となりました。



矢口 智子 理事長の特別講演では、平成26年診療報酬改定で医師事務作業補助体制加算1が新設され、医師事務作業補助者は診療現場にいるべき職種という方向に向かっているのではないかとという観点から「今後は更に他職種との役割分担や医療の効率化を求められる。それに適応できる知識や能力を高めることが重要ではないか」と、教育への強いメッセージをいただきました。それは業務指針試案にある使命でもあり、皆で研鑽しあって成長できれば成しえることではないかと強く思いました。



パネルディスカッションは当支部顧問の勝木 保夫 先生、石川県支部副支部長の松井 圭子さんを座長に迎え、「医師事務作業補助者の教育」をテーマに、各病院の教育への取り組みを知る貴重な機会となりました。まず、勝木先生より医師事務作業補助者のこれからについてのお話がありました。「これまでの経緯から医師事務作業補助者が世間一般に認められる仕事として実務者が頑張れる環境を作ることが必要である。」そのことから、更に将来を見据えた教育システム構築への展望を述べられました。日々業務に追われる実務者ですが、自分たちの未来を考え、そのために具体的にすべきことを忘れてはならないと改めて感じました。京都市立病院 山本 栄司 先生のご講演では、定期的な実務者の研修が既に行われており、その経緯をご紹介して頂きました。その中で、組織立ってやることの重要性、実務者の組織の一員であるという自覚がチームの力を発揮すると述べられ、山本先生のような頼もしい先生がいることをとても羨ましく思いました。同じく、京都市立病院の山口 雅代さんからは、配置管理者として実際に教育に当たる立場の姿勢や教育を創り上げる苦勞を教わりました。



珠洲市総合病院の三上 豊子さんからは毎朝開催される“佐々木先生の勉強会”をご紹介いただきました。目的は疾患を系統的にイメージする力をつけること。とてもレベルの高い勉強会であることが伺えました。ご講演からは“皆で同じ目標に向かって頑張れるように”というお気持ちが伝わり、また実務者

の皆さんが生き生きと働いていらっしゃる姿が容易に想像できました。公開してくださったマニュアルには沢山の人が集まりました。

そして、パネリストに恵寿総合病院の前多 亜佐子さん、浅ノ川総合病院の若栗 光恵さんが加わり、院内研修や診療科におけるローテーションについて各病院における実状を踏まえた取り組みや努力されていることを伺いました。教育は、個人のスキルアップだけではなく、実務者のモチベーション、教育する側の熱意、さまざまなものが必要だということに気付かされました。



プログラムの最後には、越後 加代子 石川県支部支部長より、当研究会石川県支部教育ワーキンググループ（以下教育WG）の活動報告がありました。教育WGの目的は、実務者がつくりあげる教育・医師事務作業補助者のボトムアップです。教育WGでは医師事務作業補助者の教育をOn-JT, Off-JTから考えました。On-JTは、石川県内の病院間での相互教育を目指しました。何を教わることが出来るか知る為のツールとしていただくために、本年5月に県内の病院を対象とした業務状況のアンケート調査を実施しました。アンケートでは、本会顧問の瀬戸先生が作成された「医師事務作業補助者業務分類」をもとに、各業務の実施状況を経験年数別に答えていただき、一覧表を作成しました。その29の実例の中から相互教育の可能性を提示しました。また、Off-JTはセミナーを企画したいとのことでした。教育に関する展望を述べ、活動中間報告とされていました。



最後に、当研究会顧問の佐藤秀次先生から閉会のご挨拶をいただきました。ご自身の経験談から、教育はする方もされる方も諦めずに継続する覚悟が必要であると、説得力のあるお言葉を頂き「Never give upの精神で頑張ってください。」と力強いお言葉で締めくくりとなりました。



終了後、ご参加いただいた方からのアンケートを拝見し「医師事務作業補助者の教育」について、参加者の皆様とともに医師事務作業補助者の未来に向かって一歩踏み出せたのではないかと感じることができました。支部として、その一助となれるよう、活動に努めて参ります。そして、これからも皆様と共に活動できれば幸いです。以上で活動報告と致します。

